

# 農林水産大臣賞受賞

愛知県田原市

天野 亘

天野 千栄子



天野夫妻は、田原市で愛知県のいちじく平均経営面積18.5aの約5倍の面積である89a（うちハウス79a）のいちじく専作経営を行っている。労働力は夫婦と父親、常雇1名で賄われている。加温ハウスから露地栽培・無加温ハウスへのリレー栽培により、3月から12月まで高単価期からの安定出荷と高い秀品率により高い農業所得を実現している。

いちじく農家が700戸以上ある愛知県でも十数戸しかいないいちじく専作経営農家であり、ハウスの経営規模はトップクラスである。ハウスすべてが硬質フィルムの鉄骨ハウスで、畝幅、株間を広く取り採光性を重視することで高い秀品率を達成するとともに、植調剤を計画的に処理しハウスごとに収穫時期を揃えるローテーション収穫を行い、省力化を行っている。さらに、JAの共同選果体制を活用し、調整出荷作業の労力を減らすことにより規模拡大を行っている。

ポットにより苗木を生育させ、定植1年目から収益を得られるようにし、2年目からは成園並みの収益を上げている。また、白色マルチ（タイベック）を畝上にテント状に被覆する、「マルチのテント張り」を平成20年頃に考案した。かん水ムラが少なく、めくって固形肥料を施用できるだけでなく、地温の急激な上昇と土壌の乾燥を防いで根域を保護でき、着色向上とアザミウマ類の飛来予防、園地の過湿を防ぐ等様々な効果を生み出している。また、炭酸ガス施用機と環境モニタリング装置を導入し、樹勢強化技術の進歩に努めている。

現在のパッキングセンターの先駆けとなる共同選果体制（ばら受け共選）の構築に尽力したほか、田原市健康福祉部地域福祉課と連携し、市内の引きこもりの農家子弟の社会復帰を支援する受け入れ農家となり、農福連携のモデルとして期待され、地域の見本となっている。